

決算説明資料

2022年3月期 第3四半期

株式会社ユビキタスAIコーポレーション

代表取締役社長 長谷川 聡

2022年2月14日

Index

- 第3四半期業績 概要
- セグメント及び製品分野別動向と取り組み
- トピックス

第3 四半期業績 概要

第3四半期（累計期間）概況

業 績

- 21/3期比で売上高・営業利益ともに増加
- 20/3期比では、半導体不足等による自動車減産等、コロナ禍の影響により売上高は回復せずも、営業損失は減少（のれん償却を勘案した営業損失は増加）
 - 連結売上高 : 1,366百万円 (21/3同期比: 10.2%増 20/3同期比: 13.2%減)
 - 連結営業損失: 23百万円 (21/3同期: 営業損失 267百万円 20/3年同期: 営業損失 90百万円)

セグメント別概況

ソフトウェア プロダクト事業	売上高 営業利益	523百万円 118百万円	高速起動は車載機器関連のロイヤルティ売上が減少したものの、コネクティビティ & セキュリティが車載機器関連の大口案件を獲得したことで対前年同期比で売上増
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高 営業損失	605百万円 183百万円	既存顧客のロイヤルティ売上減少により対前年同期比で売上減
ソフトウェア サービス事業	売上高 営業利益	237百万円 41百万円	車載機器関連のコンテンツライセンスが増加、受託開発案件も順調に推移し、対前年同期比で売上増

セグメント利益 算定方法変更

■ユビキタスAIコーポレーションの2事業のセグメント利益算定方法を変更

- 経緯
 - 旧株式会社エーアイコーポレーション合併（18年7月）以降、共通部門の一本化を推進
- 変更内容
 - 配賦比率：22年3月期の期初予算における売上・粗利等を考慮し、配賦比率を1：1へ
 - 対象：共通部門費用－営業部門、マーケティング&コミュニケーション部門、管理部門の人件費及び部門費用

■セグメント利益算定方法変更による影響額

（単位：百万円）

		22/3期 3Q			21/3期 3Q			増減額		20/3期 3Q			増減額	
		従前の 収支	共通 部門費 を変更	新収支	従前の 収支	共通 部門費 を変更	新収支	従前の 収支	新収支	従前の 収支	共通 部門費 を変更	新収支	従前の 収支	新収支
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	523		523	376		376	147	147	449		449	74	74
	セグメント利益	83	34	118	△18	33	14	102	103	22	44	66	61	51
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	605		605	632		632	△27	△27	853		853	△248	△248
	セグメント利益	△148	△34	△183	△123	△33	△156	△25	△27	16	△44	△27	△165	△156
ソフトウェアサービス事業	売上高	237		237	231		231	5	5	270		270	△33	△33
	セグメント利益	41		41	32		32	9	9	27		27	13	13

（注）21/3期及び20/3期のセグメント利益は、比較利便性を考慮して、のれん償却前営業利益を表示し、配賦比率も22/3期と同率として算定しております。

前年同期比:セグメント及び製品分野別売上高

(単位:百万円)

セグメント	分野	22/3期 3Q (連結)	21/3期 3Q (連結)	増減率	20/3期 3Q (連結)	増減率
ソフトウェア プロダクト事業	コネクティビティ&セキュリティ	140	42	231.1	94	48.0
	高 速 起 動	286	281	1.7	311	△8.0
	デ ー タ ベ ー ス	96	52	84.8	42	127.3
	小計	523	376	39.1	449	16.7
ソフトウェアディストリビューション事業		605	632	△4.3	853	△29.1
ソフトウェアサービス事業		237	231	2.5	270	△12.2
合計		1,366	1,240	10.2	1,573	△13.2

前年同期比:セグメント別売上及び利益

(単位: 百万円)

		22/3期 3Q (連結)	21/3期 3Q (連結)	増減額	20/3期 3Q (連結)	増減額
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	523	376	147	449	74
	セグメント利益	118	14	103	66	51
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	605	632	△27	853	△248
	セグメント利益	△183	※1 △236	52	※1 △107	△76
ソフトウェアサービス事業	売上高	237	231	5	270	△33
	セグメント利益	41	※2 △45	87	※2 △49	△12
合計	売上高	1,366	1,240	125	1,573	△207
	セグメント利益	△23	※3 △267	243	※3 △90	67

(注) ※1 旧株式会社エーアイコーポレーションの株式取得に関して生じたのれんの償却額 79百万円を含めております。

※2 株式会社エイムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 77百万円を含めております。

※3 上記ののれんの償却額 157百万円を含めております。

前年同期比:セグメント別売上及びのれん償却前利益

(単位:百万円)

		22/3期 3Q (連結)	21/3期 3Q (連結)	増減額	20/3期 3Q (連結)	増減額
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	523	376	147	449	74
	セグメント利益	118	14	103	66	51
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	605	632	△27	853	△248
	セグメント利益	△183	※1 △156	△27	※1 △27	△156
ソフトウェアサービス事業	売上高	237	231	5	270	△33
	セグメント利益	41	※2 32	9	※2 27	13
合計	売上高	1,366	1,240	125	1,573	△207
	セグメント利益	△23	※3 △109	86	※3 66	△90

(注) 22/3期との比較利便性を考慮し、

※1 旧株式会社エーアイコーポレーションの株式取得に関して生じたのれんの償却額 79百万円を含めておりません。

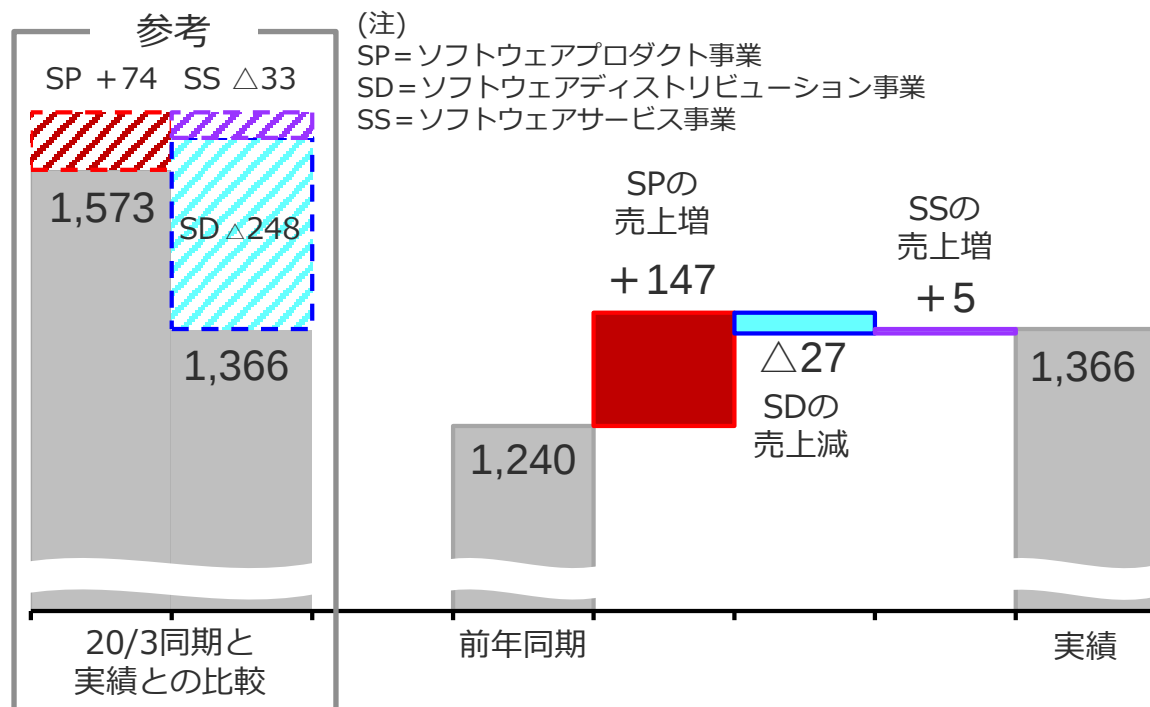
※2 株式会社エイムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 77百万円を含めておりません。

※3 上記ののれんの償却額 157百万円を含めておりません。

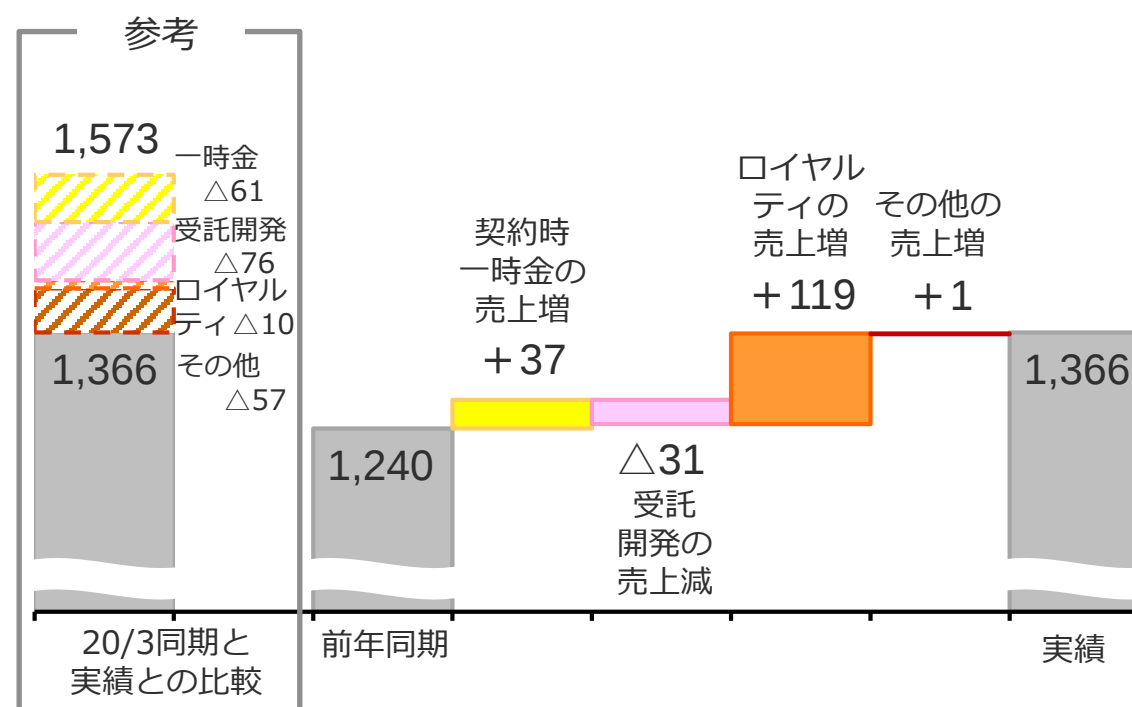
前年同期比：売上高

(単位：百万円)

事業別



形態別

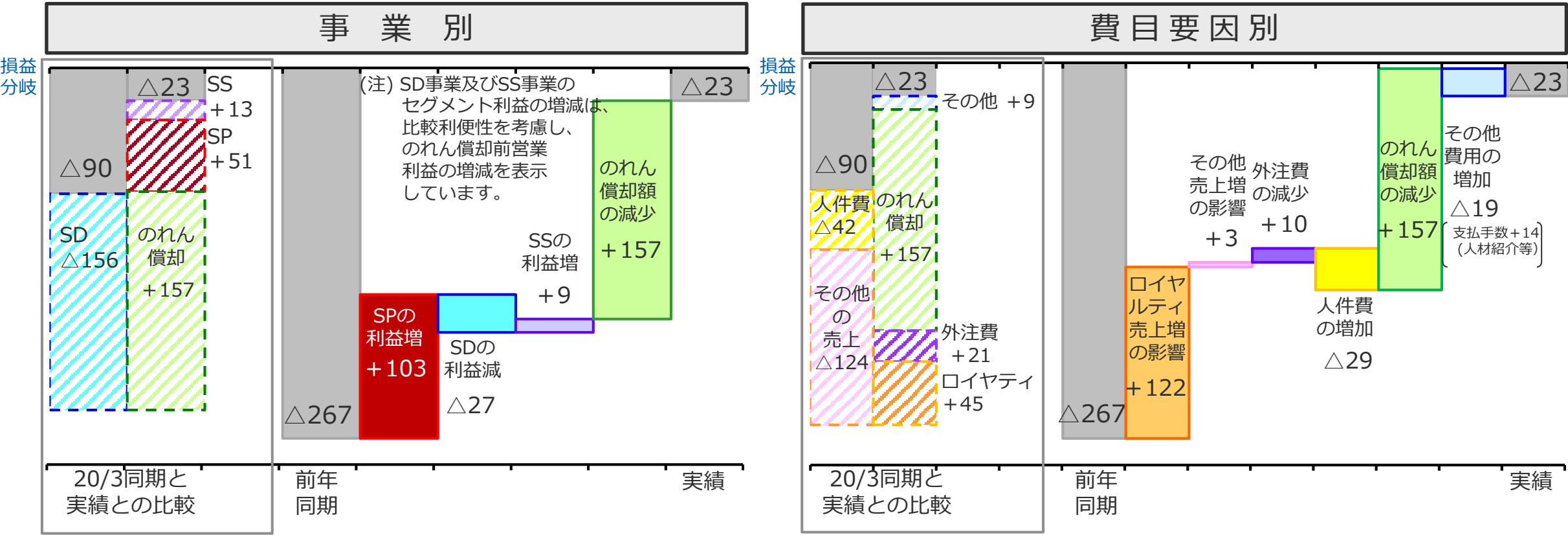


■売上高：21/3期比は増加となるも、コロナ禍前の20/3期の水準までは回復せず

- ・ SP事業：高速起動は主に車載機器関連のロイヤルティが減少したものの、データベースは産業系のロイヤルティを、コネクティビティ&セキュリティ関連は車載機器関連の個別大口案件（前払ロイヤルティ）を獲得したことで20/3期を上回る
- ・ SD事業：ワイヤレス製品ではロイヤルティ売上が前年増となるも、PC関連等のロイヤルティが減少して、前年を下回る
- ・ SS事業：主に車載機器関連の個別案件によるコンテンツライセンス、及び受託開発案件が前年増となるも、20/3期の水準までは回復せず

前年同期比：営業利益

(単位：百万円)



■ 21/3期比は大幅改善、コロナ禍前の20/3期比でも改善

- 主にSP事業のロイヤルティ売上増加、及びのれん償却終了により、営業損失が前年大幅減少となるも、その他の売上減の影響を受けて20/3期に対しても減少、但しのれん償却額減少を勘案した営業損失は増加

連結損益計算書

(単位:百万円)

	2022/3期 3Q	2021/3期 3Q	増減	2020/3期 3Q	増減
売上高	1,366	1,240	125	1,573	△207
売上原価	712	725	△13	871	△159
売上総利益	654	515	139	702	△47
販管費	677	782	△104	793	△115
営業利益	△23	△267	243	△90	67
営業外損益	11	3	7	4	7
経常利益	△12	△263	250	△86	74
特別損益	△0	-	△0	-	△0
法人税等	13	24	△10	11	2
四半期純利益※	△27	△287	260	△98	71

※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

連結貸借対照表（資産の部）

（単位：百万円）

	2021/12月末	2021/3月末	増減
現金・預金	895	828	66
受取手形・売掛金	-	676	△676
受取手形・売掛金・契約資産	408	-	408
有価証券	900	800	100
棚卸資産	22	5	16
前払費用	40	46	△5
その他流動資産	26	56	△30
流動資産	2,292	2,414	△122
固定資産	388	393	△4
資産合計	2,681	2,807	△126

連結貸借対照表（負債・純資産の部）

（単位：百万円）

	2021/12月末	2021/3月末	増減
買掛金	58	131	△72
未払金	28	47	△18
前受金	-	73	△73
契約負債	63	-	63
その他流動負債	49	46	3
流動負債	199	298	△98
固定負債	76	80	△3
資本金	1,483	1,483	-
資本剰余金	1,453	1,453	-
利益剰余金	△614	△586	△27
その他純資産	82	78	3
純資産	2,404	2,429	△24
負債・純資産合計	2,681	2,807	△126

通期業績予想（連結）に対する進捗

(単位：百万円)

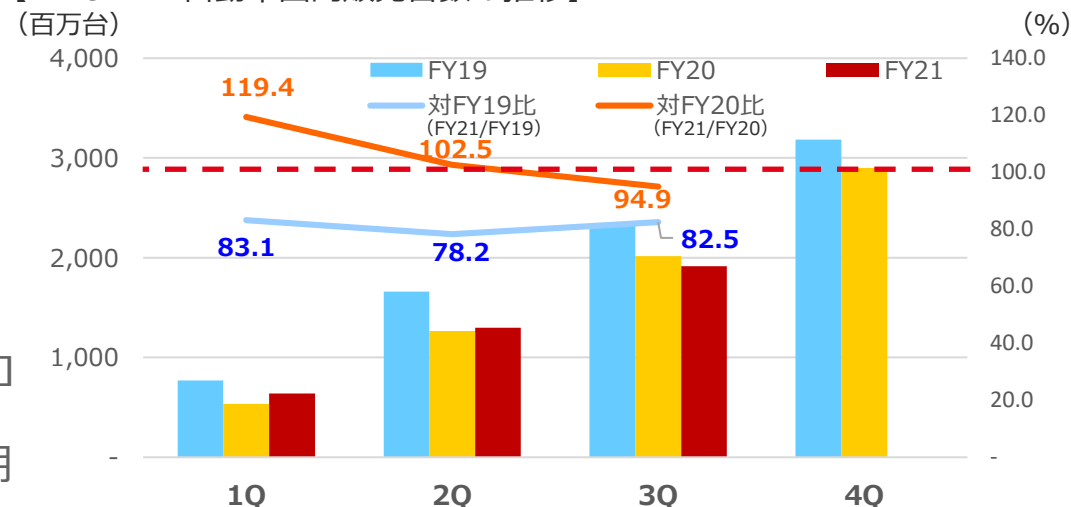
	通期 業績予想	第3四半期 実績	進捗率（%）
売上高	2,196	1,366	62.2
営業利益	80	△23	—
経常利益	80	△12	—
純利益	57	△27	—

コロナ禍及び半導体不足による当社業績への影響

■車載機器関連

- 自動車国内販売台数は、当第1・2四半期は対前年回復の兆しが見えたものの、第3四半期では前年割れとなる
- コロナ禍前の対前々年の水準までには回復していない
- 当社の車載機器関連売上も同様に推移しており、第4四半期の動向は依然不透明な状態

【FY19~21 自動車国内販売台数の推移】

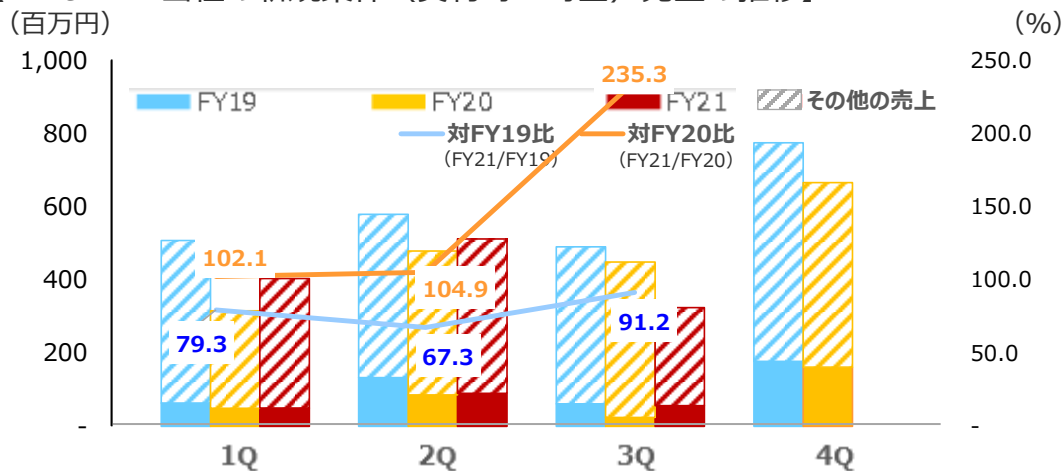


出典:一般社団法人 日本自動車販売協会連合会「2021年 新車・月別販売台数(登録車)」

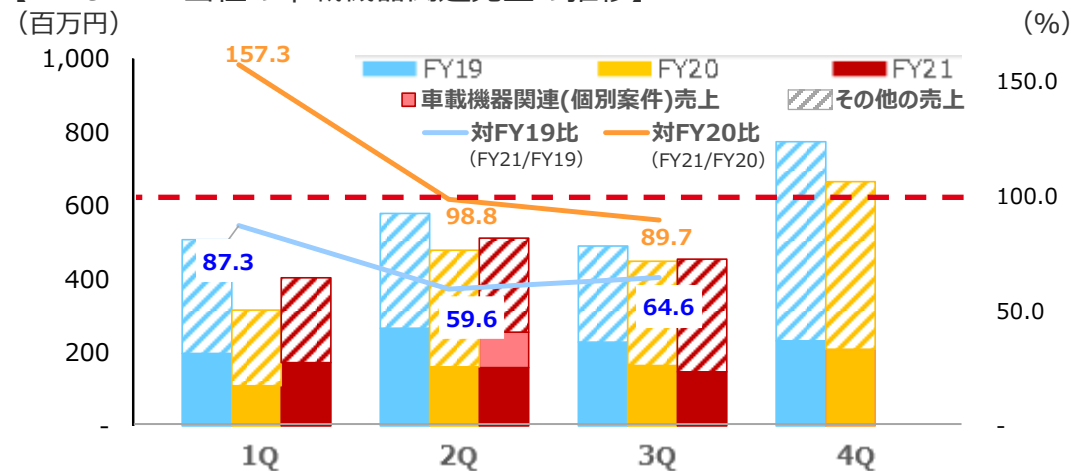
■新規案件

- 当第1~3四半期まで、対前年を上回ってはいるものの、コロナ禍前の対前々年の水準までには回復していない
- 新規問い合わせ・引き合い自体は増加基調にあり、引き続き当期の計画達成に向けて取組み中

【FY19~21 当社の新規案件（契約時一時金）売上の推移】



【FY19~21 当社の車載機器関連売上の推移】



セグメント及び 製品分野別動向と取り組み

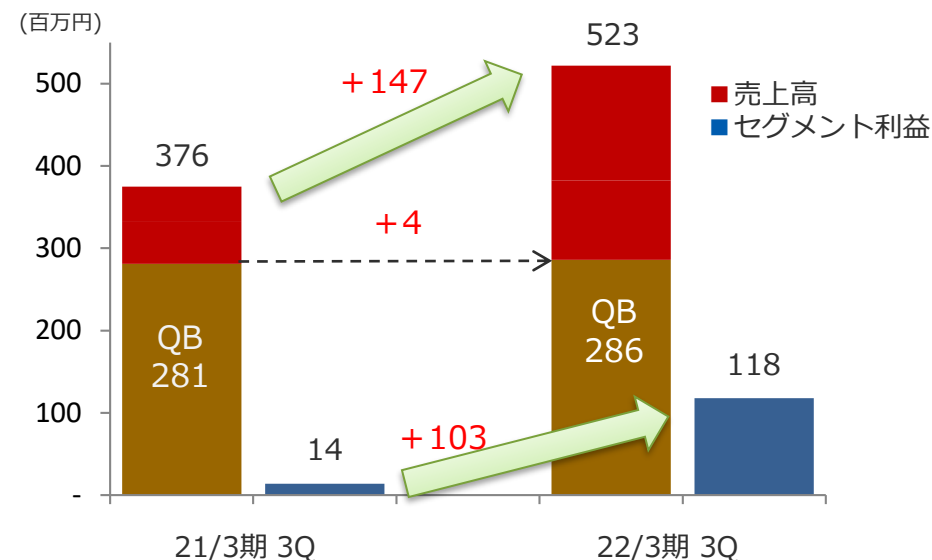
ソフトウェアプロダクト事業 高速起動関連

■当四半期概況

- ・国内外の車載機器関連、海外民生機器の既存顧客からのロイヤルティ売上を計上
- ・カーナビ等車載向け機器を中心に複数社との間で大・中規模の開発案件が継続中

■取組方向性

- ・海外市場向けの販売を強化
- ・車載情報端末以外の車載機器向けの拡販を強化
- ・電源断対応ファイルシステムや仮想化技術、セキュアブート等の機能を組み合わせ、高付加価値ソリューション化、クロスセルを推進
- ・次世代技術開発の継続



(注) グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、高速起動関連のみの売上・利益です。



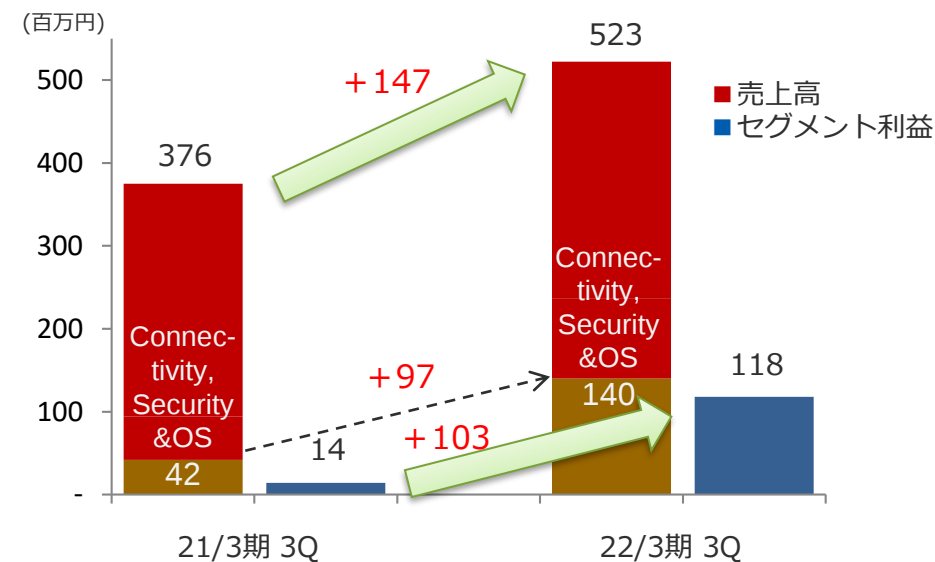
コネクティビティ & セキュリティ 関連

■ 当四半期概況

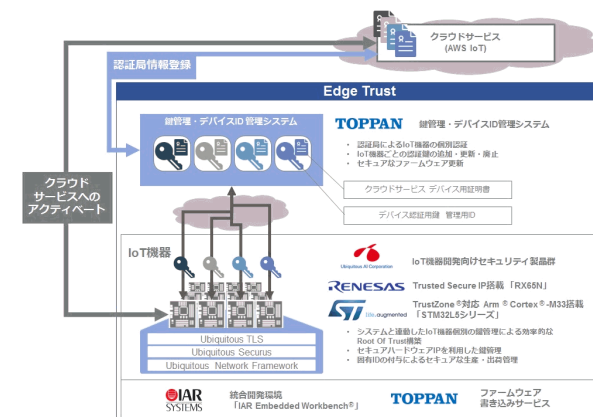
- ・ 車載機器関連の既存顧客からの契約時一時金売上を計上
- ・ 産業機器の既存顧客からの受託開発売上を計上
- ・ IoTセキュリティ関連の研究開発案件の売上を計上

■ 取組方向性

- ・ 組込み機器向けにコネクティビティ、セキュリティ及びリアルタイムOSをトータルに提案しお客様の課題をワンストップで解決
- ・ 「Edge Trust」を中心に、IoT機器向けセキュリティの需要喚起及び事業展開を継続。ソリューション提案を実現するために、半導体デバイスからクラウドサービスまでの広範なパートナー企業との連携を強化
- ・ 車載機器におけるセキュアなデジタルコンテンツ伝送への需要増に対応する「HDCP/DTCP」「Securus」の訴求と搭載される半導体デバイスへの対応を加速



(注) グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、コネクティビティ & セキュリティ関連のみの売上・利益です。



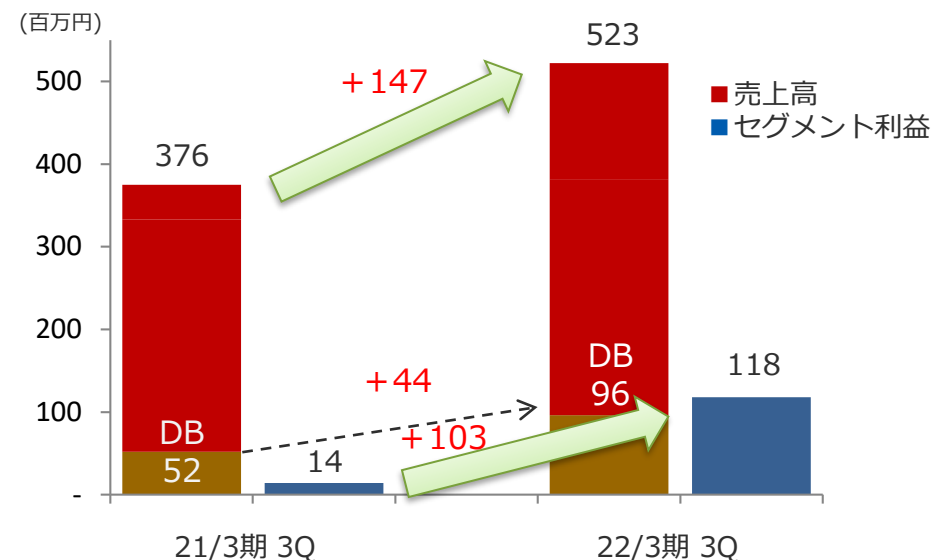
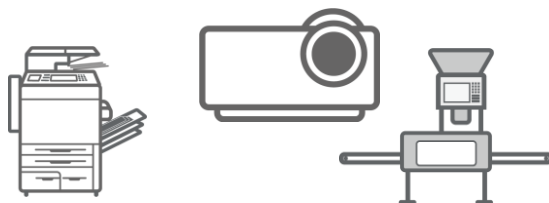
ソフトウェアプロダクト事業 データベース関連

■当四半期概況

- 産業機器等の既存顧客からのロイヤルティ売上等を計上

■取組方向性

- 既存顧客のサポートによる安定収益の確保
- 車載機器、OA機器、検査機器、産業機器等に向けた拡販



(注) グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、データベース関連のみの売上です。

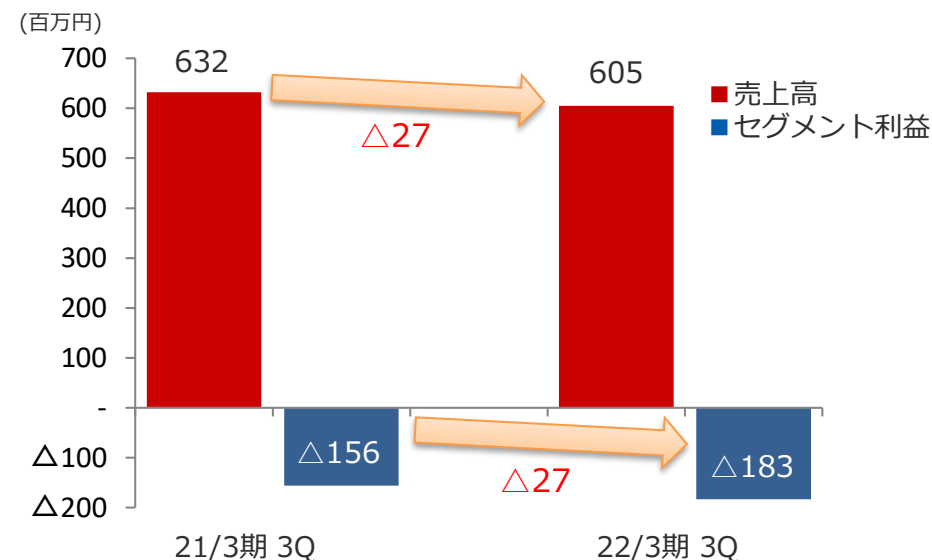
ソフトウェアディストリビューション事業

■当四半期概況

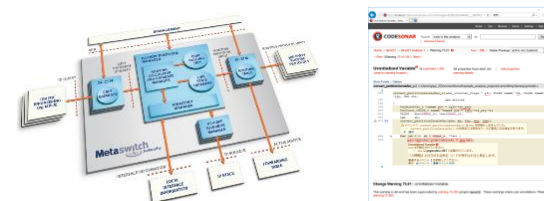
- BIOS製品「InsydeH2O[®] *1」ワイヤレス製品「Blue SDK *2」のロイヤルティ売上、品質向上支援ツール製品「CodeSonar *3」のライセンス売上、キャリアグレード製品「ConfD ※4」のライセンス及びロイヤルティ売上、IoTセキュリティ検証サービス関連売上等を中心に、多数の取扱い製品より、新規、既存顧客からの売上を計上

■取組方向性

- コロナ禍によるニーズの変化に対応した製品・技術の発掘
- 市場性のある海外ベンダーの商権の獲得
- 先期開発・獲得した新規商材の販売強化
- 年間利用ライセンス契約により収益安定への貢献度が高いソフトウェア品質向上支援等のツール製品を重点的に販売促進



(注) 前年同期のセグメント利益は、比較利便性を考慮し、のれん償却前営業利益の増減を表示しています。



*1 InsydeH2O[®]: 「EFI/UEFI」仕様を実装したC言語ベースBIOS

*2 BlueSDK: Bluetoothプロトコルスタック

*3 CodeSonar: ソフトウェアの動的不具合をソースコードやバイナリファイルから静的に検出することができる解析ツール

*4 ConfD: オンデバイスネットワーク機器管理ソフトウェア

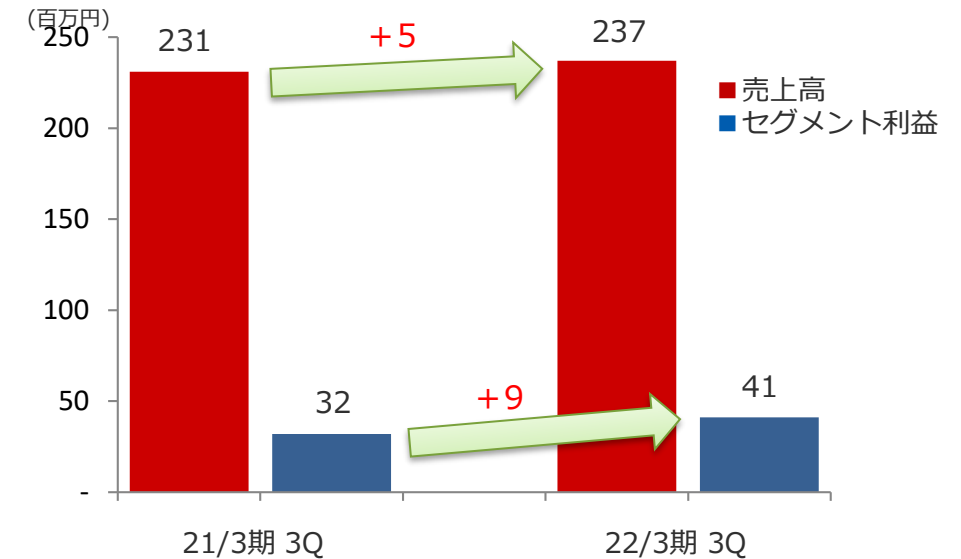
ソフトウェアサービス事業

■当四半期概況

- ・既存顧客からの各種受託開発売上を計上
- ・データコンテンツ「YOMI」に関する車載機器向けを中心としたライセンス使用料売上等を計上

■取組方向性

- ・米Gracenote社との密な連携による既存収益の継続的確保と、協業提案による新たな取り組み
- ・既存顧客・パートナー案件に加え、グループの製品・顧客関連のエンジニアリングサービス案件を軸に、グループ全体での売上シナジー実現



(注) 前年同期のセグメント利益は、比較利便性を考慮し、のれん償却前営業利益の増減を表示しています。



YOMIデータの活用例：アーティスト名ソート

アーティスト表記	YOMI
さだまさし	サダマサシ
サザンオールスターズ	サザンオールスターズ
L'Arc-en-Ciel	ラルクアンシエル
松任谷由実	マツトウヤユミ

アーティスト表記でソート		YOMIでソート	
ソート順位	アーティスト表記	ソート順位	YOMI
1	L'Arc-en-Ciel	1	サザンオールスターズ
2	サザンオールスターズ	2	さだまさし
3	さだまさし	3	松任谷由実
4	松任谷由実	4	L'Arc-en-Ciel

トピックス

「Blue SDK FUSION」 提供開始 (10/12)

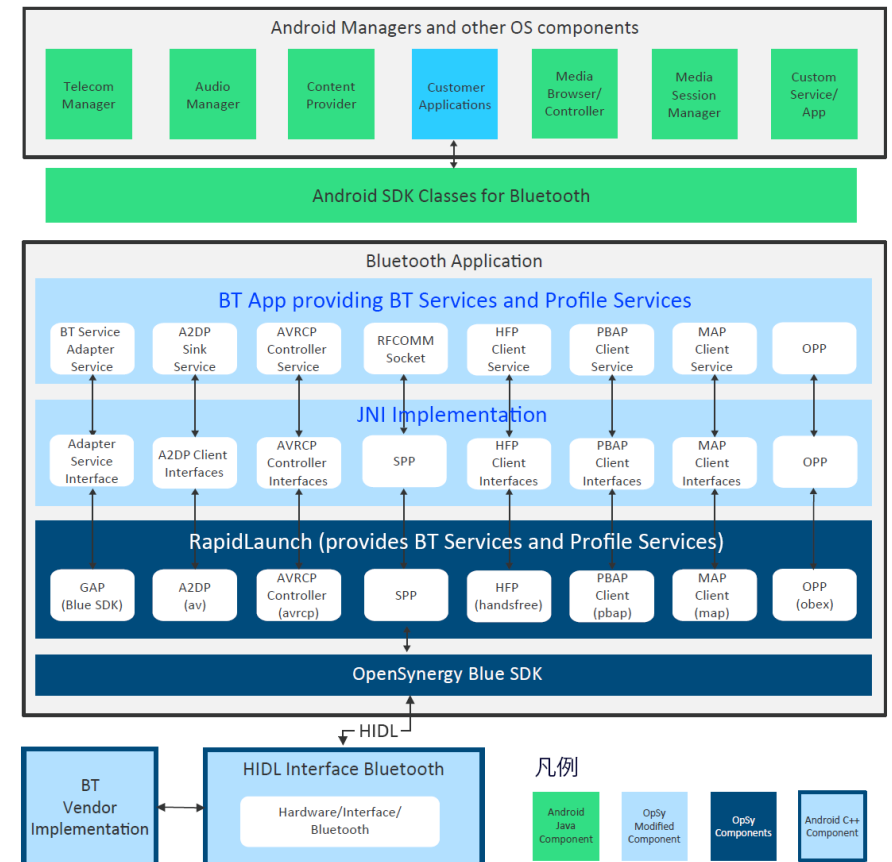
Android Open Source Projectベースで Automotive-Gradeのアプリケーションを実現

車載Android™機器向けAutomotive-Grade
Bluetoothプロトコルスタック

■特長

- 車載インフォテインメント機器向けに豊富な実績を持つ、OpenSynergy社のBlue SDKをベースに開発
- 車載インフォテインメント機器向けの要求仕様を満足する機能性、柔軟性及び堅牢性を実現
- ASOP標準Bluetooth APIとの互換性を維持、既存アプリ・サービスとの連携
- ASOP※ Bluetooth APIの拡張、機能追加が可能
- CTS、VTS、ATSサポート

※ ASOP (Android Open Source Project)
オープンソースとして一般に公開されているAndroid用ソフトウェア



Blue SDK FUSIONの製品スタック構成

「AIBOD ACADEMY」提供開始 (11/25)

製造業におけるAI/DX人材の育成と顧客企業の具体的課題の解決を同時に実現

チームAIBOD社との資本・業務提携に基づく製造業でAI/DXを実現する課題解決型人材育成サービス

■ 主な提供プログラム

- ビジネス革変リーダー育成
自社の既存技術と先端テクノロジーを融合させ、新たなコア・ビジネスとして具体的な製品・サービスのカタチに落とし込む実現力を育成
- マーケティング&プランニング人材育成
先端テクノロジーのトレンドを見極め、自社ビジネスに新たな付加価値を創出する企画力、事業開発力を育成
- プロジェクトマネージャー育成
先端テクノロジーを取り込んだ製品・サービスに特有な高難度の開発とビジネスを推進するマネジメント力を育成

<提供内容>

- 座学及びPBL（Project Based Learning）形式の講義
- コンサルティング



AIBOD ACADEMYサービスイメージ

Engineerforce社との資本・業務提携（1/12）

過去の見積もりデータを社内共有し、見積もり業務の精度向上と省力化を実現する見積もり作成ツールを製造業中心に展開

■ システム開発の工数見積もりに関する課題

- 工数の見積もりは実際の発生工数との乖離が収益に直結するため極めて重要な業務だが、各担当者の属人的なスキルに依存し、Excel等で個別に積算管理しているケースが多く、時間も要するため、精度の平準、社内共有、作業効率化等の課題がある
- 工数見積もりをSaaSベースで管理することで、過去データの参照による精度向上やスキルアップ、収益率低下の防止、作業時間短縮によるコスト低減が期待できる
- 見積もり工数と実際の発生工数のギャップを可視化するレビュー機能が見積もりミスの原因発見につながる

見積もり作成のDXツール「Engineerforce」の特長

クラウドで一元管理



工数の情報をクラウドに集約

過去のデータを検索



過去の工数データを確認

チーム内でナレッジシェア



見積もり工数の流用が可能

収益の見える化(予実管理)



見積もりと実績の差分確認

「ユビキタスAI」への商号変更（1/5）

■変更理由

- 2018年7月の旧エーアイコーポレーション吸収合併時に両社の知名度を活かすことを目的として、現商号へ変更
- 合併から3年が経過し、当社に対する一定の認知を得ることができたと判断し、企業価値及びブランド価値の向上、市場における一層の社名浸透のために商号を変更

※英文表記：Ubiquitous AI Corporationに変更なし

■変更予定日

2022年7月1日

※2022年6月下旬開催予定の第21回定時株主総会において定款の一部変更が承認されることが条件

新市場区分における「スタンダード市場」を選択 (12/20)

- 取締役会において、東京証券取引所の新市場区分として「スタンダード市場」を選択し、申請することを決議
- 2022年4月4日、新市場へ移行予定

Appendix

2022年3月期 第3四半期 開示一覧

発表日		プレスリリース
第3四半期	10月12日	■ 車載Android™機器向けAutomotive-Grade Bluetoothプロトコルスタック「Blue SDK FUSION」を10月12日に提供開始 ～Android Open Source ProjectベースでAutomotive-Gradeのアプリケーションを実現～
	11月25日	■ ユビキタスAI、チームAIBODによる製造業でのAI/DXを実現する課題解決型人材育成サービス「AIBOD ACADEMY」の提供を開始 ～AI/DX人材の育成と顧客企業の具体的課題の解決を同時に実現～
第4四半期 (参考)	1月12日	■ ユビキタスAI、見積もりプロセスの可視化とナレッジシェアツールを提供するEngineerforceと資本・業務提携、製造業向けの販売協業で合意

Connecting the Future



Ubiquitous AI Corporation